

コース名		科目名			対象学年		
臨床医学		臨床病態論			4		
開講学期		科目責任者		副責任者			
2 学期		松田 純子		三原 雅史			
目的							
主要疾患の病態を基礎医学や臨床医学の各分野の知識を統合的に用いて論理的に思考し説明できる能力を習得する。							
授業到達目標							
臨床現場で遭遇する機会の多い 15 疾患 15 症例（教科書内の 6 症例および追加の 9 症例）の症候、病歴、身体所見、検査所見を論理的に説明できる。							
1 血液疾患							
症例 1：四肢の紫斑、倦怠感、月経過多を主訴に来院した 40 歳の女性							
症例 2：全身倦怠感を主訴に来院した胃の手術既往のある 72 歳の男性							
2 呼吸器疾患							
症例 3：高熱、膿性痰を主訴に来院した 78 歳の男性							
症例 4：胸痛、呼吸困難、咳嗽を訴え来院した 33 歳の男性							
3 腎臓疾患							
症例 5：徐々に増悪してきた浮腫、食欲不振を主訴に来院した 76 歳の男性							
症例 6：高血圧と高血糖から全身の浮腫を認めた 60 歳の男性							
4 循環器疾患							
症例 7：突然の胸痛で救急搬送された 40 歳の男性							
症例 8：突然の動悸が出現し、持続するため救急外来を受診した 72 歳の男性							
5 消化器疾患							
症例 9：急性に発症して徐々に増悪する腹痛で救急搬送された 67 歳の男性							
症例 10：突然の吐血で救急搬送された 47 歳の男性							
6 神経・筋疾患							
症例 11：しゃべりにくさ、右半身の脱力を主訴に救急搬送された 65 歳の男性							
症例 12：不整脈で受診し、手指脱力を指摘された 31 歳の女性							
7 内分泌・代謝疾患							
症例 13：手足のしびれ、痙攣を訴える 32 歳の女性							
症例 14：原発性無月経を主訴に受診した 19 歳の女性、21 歳の女性							
症例 15：進行性の食欲低下、体重減少の精査目的で紹介受診した 52 歳の男性							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	8/28	水	1	講義	松田純	病態代謝	症例 1；血液疾患（出血傾向）
2	8/28	水	2	講義	松田純	病態代謝	症例 2；血液疾患（全身倦怠感）
3	8/28	水	3	講義	増田清	医学部	症例 3；呼吸器疾患（高熱、膿性痰）
4	8/30	金	1	講義	増田清	医学部	症例 4；呼吸器疾患（胸痛、呼吸困難、咳嗽）
5	8/30	金	2	講義	板野	腎内	症例 5；腎臓疾患（浮腫、食欲不振）
6	8/30	金	3	講義	板野	腎内	症例 6；腎臓疾患（高血圧、高血糖、浮腫）
7	9/ 4	水	1	講義	松田純	病態代謝	症例 7；循環器疾患（胸痛）
8	9/ 4	水	2	講義	松田純	病態代謝	症例 8；循環器疾患（動悸）
9	9/ 4	水	3	講義	増田清	医学部	症例 9；消化器疾患（腹痛）
10	9/11	水	4	講義	増田清	医学部	症例 10；消化器疾患（黄疸、吐血）
11	9/11	水	5	講義	松田純	病態代謝	症例 11；神経・筋疾患（意識障害、片麻痺、構音障害、眼球運動障害）
12	9/11	水	6	講義	松田純	病態代謝	症例 12；神経・筋疾患（筋力低下）
13	9/18	水	4	講義	松田純	病態代謝	症例 13；内分泌・代謝疾患（手足のしびれ、痙攣）

14	9/18	水	5	講義	松田純	病態代謝	症例 14: 内分泌・代謝疾患（無月経、多毛）
15	9/18	水	6	講義	松田純	病態代謝	症例 15: 内分泌・代謝疾患（食欲不振、体重減少）
評価方法							
[期末試験]100%（講義内容の理解度を 5 択方式および筆記試験にて問う。） [評価方法]多肢選択試験、論述・記述試験							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて							
試験問題に関する質問は、担当教員に連絡（メールもしくは中央教員秘書室から電話）してください。担当教員が適宜解説します。							
教科書							
ISBN-9784524267378, 総合診療力を磨く 40 の症候・症例カンファレンス : 臨床推論の達人を目指せ! = Conferences to learn clinical reasoning through case presentations, 加計正文, 神田善伸, 小山信一郎編, 南江堂, 2014							
参考書							
ISBN-9784254322712, 内科学（第 11 版）, 矢崎 義雄（監修）, 朝倉書店, 2017/03/10							
準備学習（予習・復習等）							
15 症例（教科書および講義資料として配布）の病態・診断・治療を予習して講義に臨むこと。 講義で解説を受けた内容は教科書を読んで各自復習すること。予習・復習にはそれぞれ 1 時間程度の学習を要する。							
講義についての注意事項							
講義中の途中退席は特別な理由がない限り認めない。厳重に対処する。講義中はスマートフォンをマナーモードにし、メールなどの操作を行わないこと。 講義中に質問があれば、積極的に発言すること。 本科目は各分野の代表的疾患の病態生理を理解する絶好の機会です。演習形式の「症候論」と関連させて講義に臨み、提示症例の病態メカニズムを論理的に説明できるようになってください。講義内容に関する質問がある場合は、担当教員に連絡（メールもしくは中央教員秘書室から電話）してください。							
昨年度からの変更点・改善項目							
昨年から引き続き、代表的疾患の臨床症例の病態生理を論理的に説明できるようになることに重点を置き、CBT 対策にも言及します。 本年度は、最新の診療ガイドラインや、各疾患に関連のあるトピックスにも言及します。また、期末試験の評価には含めませんが、知識の定着や自主学習状況の把握のため、確認テストなどを随時行います。							
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について							
本科目は、主要症候の病態を把握し、論理的に推論、理解し、適切に判断する能力を養う科目で、同時期に開講される臨床推論と連動している。3 学期から始まる臨床実習Ⅳ・Ⅴ履修や 5 学年、6 学年の臨床実習のために必要な科目である。 コンピテンス・コンピテンシーのⅢ-2 および 3 とⅣ-3 の達成に向けて設定されている。							
ナンバリング							
DLCP414							